



# 美保関灯台

## 境

港は鳥取県の西の端から北西へ延びる弓ヶ浜半島の北端に位置している。その西は中海、東には美保湾、そして北には両海をつなぐ東西約七キロ、幅約二〇〇から六〇〇メートルの境水道が、鳥取県と鳥根県の県境の役目を担いながら流れている。タクシーをひろって境水道に架かる境水道大橋をわたり、対岸の鳥根半島の先端に向かって五キロほど走ると小さな港町の美保関町につく。今は静かな漁港だが、その昔は日本海有数の港であり、またエビス様の総本宮として知られる美保神社の門前町でもあったため、たいそう栄えていた。今日はここに宿をとり、かつての栄華を偲ぶことにする。

車を降りて宿に入ると、女将にタクシーで来たのかと意外な顔をされた。なんと境港から送迎してくれたらしい。ホームページにも書いてあるそうだが、不注意な私は見落とした。タクシー代三、〇〇〇円も払ってしまったので、心が折れそうになったが、気を取り直して半島の先端にある美保関灯台へ行くことにした。歩いて三〇分ほどらしいが、行きは登りで大変だから車で送ってくれるという。傷ついた心が癒される思いだ。

さて、半島の南側に沿った車道を灯台へとむかう。帰りは、ここを歩くことになるが、ほとんど車も通

らないし、危なくはないだろう。

かくして灯台に到着。空が真っ青だ。岬の先端なので、水平線を見渡せる。白い石造の小さな美保関灯台は、鳥取県の境港および鳥根県の浜田港の開港に伴って、明治三十一年に建てられた。高さは一四メートルで、平均海面から灯火までは約八三メートルある。

この岬は、航海の安全を祈願してたくさんの地藏が祀られていたため、地藏崎と呼ばれており、美保関灯台も当初は地藏崎灯台と名付けられていた。しかし、地藏崎の名が他所にもあることから、昭和十年に改称されて今にいたる。

山陰では最初の石造灯台であり、平成十年には初点灯から百周年を迎えた。そして、それを祝うかのように国際航路標識協会が提唱した「世界各国の歴史的に特に重要な灯台一〇〇選」に選ばれた。また同じくこの年に、海上保安庁が募集した「あなたが選ぶ日本の灯台五〇選」にも選ばれている。さらに、平成十九年には現役灯台としては初めて登録有形文化財となった。

灯台の脇にはこれも石造の官舎があるが、今はビュッフェになっている。美しい日本海を眺めながら、食事ができるといわけだが、今日は平日のためか営業していない。

夕食前に一風呂浴びたいので、そろそろ戻ることにする。半島に沿って曲がりくねる道路は、エメラルドに輝く美保湾に面している。この湾は、鳥根半島が外海からの波を遮るため、いつも穏やかだという。黒々とした海に波頭が砕ける日本海というイメージは、ここには適さない。時折、赤とんぼが寄って来ては、飛び去っていく。宿までは、あとわずかしかない。



美保関灯台

[交通] 境港駅よりタクシーで約20分

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館  
**江口知秀**  
Tomohide Eguchi